



特別
~ 13
4264
2



13
624
2



知物二十不存 目錄

卷五



胸を踊まけし多前

筑前小浮世の風ふた乃は屋



八人の狸と傳

長湯に力とよむる屋

二十不存 五

06/8714092



無用の力自傍

横波小常の力自傍の力自傍



古に部と立出と雨

ある小令他乃力屋

梅とて踊まけはあ

梅や梅や糸糸子毛ぞ運れ糸高七月十三日
夕暮の麻柯の焼火とて世にた記玉とある
衣の秋那り露小源よあ神井漆統糸の国福島の町
そのまはは屋長九郎といふ舟のりろろがあがく
あ育たつこま色深才ふとれ治立よのりて被岸
小服つとくあぬと徳とほ家揖とれと世帯といひ
揚るあろる子武人ろろあ然の長八郎決の根とく
小さんと名付し毛よ入舞とれろるの長八とくあ
せと親の母小とらとらと大由一の波海とあくとゆりの母
親とあつらとく瓜抱けるらへ波の上の仕合とてあ

くく内院のありては河波の晴波より海りかきまを
正月も宿少く年とたふるのりけし帝幸とぬまわが
ら備深の削いゆるさびを盡きて所入と慮ふまあひ
帝位おとるる削やてと懸くと百実小法を三
蓋母親せざじふぞやと並おめくおしりくく
舞子と宿とせめてひりみなりた下しわればおれく
疾のち後乃とぬるゆをまひ命とく徳のりくく
判めく徳が一みゆとぬと入物以めくお徳乃の明非
と替文ふ入く二人の志れゆるとし新漸くは安分
と十八六人掛を建くと海ぬるふ小枕枕備燭は貴氏
算用とくまゆりぬも中お情多よりむい高人味

唱浦の賣盡とくでいかつととと人徳小ゆり角か
と鬼の息つたとく時があぬと徳全ゆくと廣お
小座紙紙とくゆとめく眠乃出人の物云と幻ふ安ぬ
母親化人のあるたとくぐげ圓小我ゆと漢より記
志まことととたふととあひの佛棚をかざり蓮花
飯と宿ふ宿に始末ゆくと茶末と終くと物より
い西戸と殿とく焼ゆとお茶とこれと煙草たぐ焼
火の油と事うに煙が懸遠引より糸と漉るが今の
るれ光とと粒とゆと是より先に奈滑とと母
の飲死とかまらに始の庭おゆりくと才振ひふと料
やりくと目の焼より乃踊のゆといふはあさやとく



二竹不待

五



こくいのりお湯をく何と横角に之を煮りおし。れ
上ねぐう高比よ志多へと紋布れ只紙あけく様式
黄三百細金入十目だらりあるふまうせけ煙小をど
内と玄桂くぬりぬなつるゆへお天の所へ入るに
おと清記しうりお長八色聲とひとのひよれりふ
まゝゆる仕合うて二ひびもおあつりくあま
し。増と煙乃善悪と培れバ長八緞おまかひけ家
と退却し聲より外よりうりうりうり人のむじあま
よりのひくともめれとくまぬとあけな紙かひ
らび志く生れ松子よりと契りともあまる

八人の裡く傳

波乃敷のるりく去傍乃漆少く裡く道
び掲村のうりお松尾大時村と幼徳り。其は幸に二の
乃壹瓜たへる名のお傳八人の大と令し家おあひり
大蛇の志に師。酒音をり乃動内お東坡の有ゆ
常夜の東去傍つら入接極のや年。均掛井のつら
をり大年まで解の元し傳時ひあくひのてこし秋お
ハ酒のまか傳時くくは。兼着角云も乃お所ら
ハりて酒瓶乃底お志のめ。万しれし。ともし。あ
く傳外より浦山お流分の極びとれひとのめり口ま



字と金いしとくしとく乃酒與今の程と書ある後
とありと母がらと体めと強もどと色候あわじ事と
あり海でけ一なとひつとく日ふ三を斬ふと交乃
浪りときこの二をふみ合はく一日一夜までつゆの
とあれの因縁親と白眼はけそあこの意業との
と海りのゆあるべたやせれよの一一もしり外のた
酒は持ち命何ぞかしの今あはれ我生せが沫海
徳白あびせ棺桶は伴丹乃汁搦ふ入衣のうい
乃酒は懼ましつとま秋の松山人の汲筒れ漏りか
とる死ひとわりの世まかか入のましとく現世は
けいれいもは解めましつとたはく乃とあり

解^{あひ}れく八月七日とほげけし海ふ

初と世はるのと外よたりと

もどたひいとわりく

母果^{もも}らるくはと枕とあげと

け死^しめりーありと

しるうれ後ふ愛と先と

たげとれかひと

おろりた



しと後りそ乃流よ考るるに依保の所せり流り
くと後ひと門いそへ頃ハ物をもく漸く廿七日め
よ此江戸心付く鞠町六丁目小橋入屋の丸めり
方へ夜更に仕つけしとれん物もろくに細に様
色穿せど家えおせれりるもよき物にて候とい
とせんとも口は程のゆゑきいあり。扱え候とら
流りていさうのりてふかか候し。ふ費さうに
十八名流り物とく米八合流り節と申すゆゑ
赤面し。達意さうあり格もかか候と申す
と金取あり候とてさうさあありとれり候
ふしと合意とて候しけりぬ。いさう候と申す

よ今と何程しふかざりあり。徳園丸四里切
と信込首尾と候もせあり。さあ候と申す。退付仕
合もへ。さうのりてと候と申す。さあ候と申す。一
のなまといさうさあ候と申す。さあ候と申す。さ
の流り候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。さ
とれり候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。さ
の流り候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。さ
買とて。さあ候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。
さあ候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。
さあ候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。
さあ候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。さあ候と申す。



と申すは其の法書にて張るる門柱も雲川内近
處も用ふまゝして張れ流へりて見えて内は杖
くおるは山よりせりけり茶戸あけく十実あり
あり流りてとれどこの髪につけり同情の如く
けき度ふされくの猶給ひていふあり純理の帯
もく猶もげ柄のされり大脇指とて書端若くは
かこくくもれりけり出我呼々程ふまゝぬれぬ
いぬるは河川にほりて汗を拭のあらぬ様こ
ろは西出りもふも大指とてかゝりてその様
くい中へり物衣とてく習りてそのやとれた
りしを把柄とて内ふりてけり子の二粒と見り

と申すは乃紙性よりふはといふ外横柱と枕とく
目ざりてとれぬやそれと喰くまゝの今とや
流すは流すは支ぬまゝにぬれぬ親仁の流く一
只ありて
流すは流すは母の流りて咽は通るぬとよに柄か
かへ流すは流すは流すは流すは流すは流すは
柄とてその流すは流すは流すは流すは流すは
わ色もよと見りていふは流すは流すは流すは
いふ細もよと見りていふは流すは流すは流すは
け七日の二入の親と湯とを流すは流すは流すは
固あり生れ付を流すは流すは流すは流すは
親仁とていふは流すは流すは流すは流すは

後まればお初乃りたの百ふつた何程の巻く巻く
程も八百を小同てけりありとくも流石に
と云れぬ滑上突つらつら中お色おし連三
師いそれより何となくお小向の米味もあは
畑へはあよいら門の戸とゆればおのあま
園に流るあやしくおれ大振愛あつらんか
しと云ひひるん母の七川の津所鳴り友の
果られ親仁の只今息結るやと云おおら
しく油紙とのへるん教あつて虎のゆきを
乃息とおかん今つし自害とら紙ぬめぬの流し
つ物とつらとせめくんと流る三人のあは能と

母の虎とゆふ負せ又の連三師府の掛聖義の烟
とゆきそ虎の虎のゆが伽とて難儀のとの流し
かろげ友の市井命の内よのさつらつらと
あつりおおを連三師奈良とて親連のあま
無くかあぞれより十日むらり毎日たまふらふ
生園信徳より歴より武士のあまの流し橋とて
と年月のあまととくと洞は洞の流しと
おあし連三師居合せと相と頼りしとん
お色あつてけ虎のゆめと実とあつらふ
実川内近方へおあまおきとるに求の流し
流しとせしおお子あつておあまの流し

徳川一六金子百五拾り。あゝるるをさし合々く列
 せらる。とほ徳川一師の通町お棚中一と高のた度
 く程なく分限おぬくむ終より二人の親と向へ
 夕暮のどあしぐのゐるありあはれお報とて
 あり無成とさるく。日中橋のりりり小角座あは
 小あさ入育の奈あ刃今金伝りありと報し備
 永代松の奈とるべげ市村は小あはれあて報し備

貞享三曆

丙寅

霜月吉辰

江戸青物町

萬谷清兵衛

大坂呉服町八丁目

田三郎右衛門

同平野町三十目

千種五兵衛板

